

やすらぎ

特養住民
佐々木アキノ 筆

第13号

発行 平成13年9月25日
社会福祉法人やすらぎ会
編集 広報委員会



昔、よく遊んだもんだ～

〈見事な手さばきでお手玉遊びを楽しむ特養住民の皆さん〉

- ◆特別養護老人ホームぶなの園 ◆デイサービスセンターぶなの園
- ◆沢内村在宅介護支援センター ◆ホームヘルプステーションぶなの園
- ◆西和賀介護相談室

沢内村大字太田第2地割135番地 ☎0197-85-2322

◆沢内村高齢者生活福祉センターかたくりの園

沢内村大字大野第17地割140番地1 ☎0197-85-3388

ご本人・ご家族の希望が介護の原点

特養家族面談のご報告

五月から六月にかけて、特養住民約四〇名の方のご家族と、生活相談員、介護支援専門員等との面談をさせていただくことができました。前号でお伝えしました通り、住民お一人おひとりのお気持ちや要望を大切にしたい援助計画にしていけることが、この面談の目的です。

ご家族の皆さんからの要望をまとめてみたところ、機能回復訓練、健康面、地域との交流に関わるものが多くあげられておりました。これらの要望をお受けし、検討させていただいて、職員として次のような取り組みをしております。

能回復訓練については、機能訓練指導員（看護婦）を専任とし、専門の訓練士の指導を受け、個々の援助計画に基づいた機能訓練計画を立てました。その上で、可動域訓練や基本動作の訓練を、最低でも週に一回は行なうようにしております。また、日常の生活においても、ご自分で行うことはできるだけご自分でやっていただくようにしており、職員は声かけや見守りしながら、必要な部分のみお手伝いさせていただくことにしています。

健康面の要望として多かったのが「体重の増加が気になる」というものです。体重の変化と食事量、運動量には密接な関わりがあります。

毎日の楽しみである食事の量をただ減らすのではなく、ご本人の嗜好を取り入れ、個々の運動量に応じた食事をご用意させていただく。そのため、主治医や看護婦、栄養士とも話し合い、もちろんご本人



にもご理解いただけるよう取り組んでいるところです。その結果を、個別援助計画の中にも取り入れることにしました。

地域との交流については、七月下旬に特養住民数名に疥癬の感染が確認されたことにより、ボランティアのご協力や地域の方々との交流活動は計画通り進められませんでした。しかし、それは職員側の都合であって、住民の皆さんにとっては社会的

お詫び申し上げます

昨年10月、ぶなの園で疥癬が集団発生し、特養住民、在宅サービス利用者、ご家族ほか多くの方にご心配とご迷惑をおかけしました。完治後も二度とこのような事態にならぬよう感染予防に努めて参りましたが、7月下旬に5名の特養住民の方が、嘱託医より疥癬と診断されました。昨年の教訓から、その対応については迅速に、徹底して行ない、9月13日には医師より全員治癒との診断をいただいております。感染されたご本人はもちろん、ご家族やご面会の方々に、またも多大なご迷惑をおかけし、誠に申し訳ございません。今後一層気持ちを引き締め、徹底した感染予防に取り組んで参りますので、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

施設長 上野米子

交流が少なかつたことでストレスがたまっているようにも感じられます。今後は行事などを通して、地域の皆さんともっともつと交流できる機会を多くできるように、検討して参ります。

何より大切なことは、ご家族やご本人から出された要望に対し、ただ計画を立て実行することに力を注ぐのではなく、その計画がどういう目的で作成されたのかを職員一人ひとりが把握し、援助させていただくことです。このことを常に念頭に置き、今回の面談を契機とするものにしていきたいと思います。

〈介護支援専門員兼寮母 平川縫子〉

結果よりもつくる過程を大切に やすらぎ会文化祭に向けて

人が生活を充実させるためには、読書や庭造りなど、その人らしい文化的な活動を生活の中に取り入れることが、年齢に係らず大切なことです。特に近年などで仕事を終えた方にとつては、それが生きがいとなり、健康を保ち、痴呆などの進行を遅らせることも期待できると言われています。

そこでやすらぎ会では、特別養護老人ホーム、デイサービスをはじめとする在宅サービスにおいて、さまざまな文化的活動を重要な生活支援の一つとして位置付けています。その結果、多くの作品が日々誕生しています。細かい作業に不自由な身体で時間をかけて取り組まれたもの、何人かのご利用者で力を合わせて製作

された大作など、製作の過程もそれぞれです。その過程こそが大切な部分であり、やすらぎ会ではできあがった数々の作品を、製作の過程も含めて地域の皆さんに見ていただくことを第一の目的として、「文化祭」の開催を計画しました。

また、家庭でご家族の介護を



廊下に貼られた住民の書道の作品

されている多くの女性の皆さんが、介護に対してつらさや厳しさだけを感じるのではなく、希望や喜びを見いだせるきっかけとなるような内容の催しも検討しているところです。

なお、文化祭は十二月二日(日)が開催予定です。特養住民、デイサービス利用者の方々は、今からこの日に向けてこつこつと作品の製作に取り組んでいます。また、当日は作品の披露を通して、地域の皆さんとの交流も期待しています。ぜひ、皆さんでおいでください。

〈特養 生活相談員 前島正人〉



新しい住民 ご紹介

平成一三年六月〜八月



〔6月入居〕
川舟 高橋スエさん (91歳)



〔7月入居〕
貝沢 菊地キワさん (79歳)



〔8月入居〕
泉 沢 高橋喜一さん (77歳)

(年齢は八月末日現在)
よろしくお願ひいたします



『もっと話がしたい』 ホームヘルプサービスご利用者の心のうち

沢内村の六五才以上の高齢者数は、平成一三年七月末日現在で一三二五人。村の総人口に占める割合（高齢化率）は三一・六％にのびります。

これは全国の平均値（高齢化率約一八％）を大きく上回っており、全国的にも人口の高齢化が著しく進むなか、沢内村はそれ以上に高い数値を示しています。

また、高齢化の進行は高齢者夫婦世帯や一人暮らし世帯の増

加にもつながります。沢内村の一人暮らし世帯、高齢者だけの世帯は合わせて約一三〇世帯。ホームヘルプサービスを利用しながら自宅での生活を続けているという高齢者の方も多くなっています。

高齢者だけの世帯で利用されるホームヘルプサービスの内容は、調理や掃除などの家事援助が中心です。しかし、利用者の方は、実は家事よりも心の潤いを求めている、という場合もあります。



ヘルパーとナスの皮むきをするご利用者

『ヘルパーさんに血圧を測ってもらったり、話をするだけで安心する。ヘルパーの仕事は早く終わらせてもらって、もっともっと話をしたいのだが、なかなかそうもいかないようで…』
夫と二人暮らしをしながら、掃除、買い物、調理などのホームヘルプサービスを利用していただいている貝沢のK・Tさん（七九歳）は、このように話さ

れておりました。普段外に出ることが少ないので、週二回のヘルパーの訪問時に話ができることが、とても楽しみなのだそうです。

しかし、いくら利用者のご希望とはいえ、訪問時間中ずっと話ばかりしているという訳にはいきません。特に介護保険での訪問の場合は、いわゆる「話し相手」としての訪問はサービスの内容に含まれておらず、利用

者の要望になかなか応えられないのが現状です。

利用者ヘルパーとの信頼関係が強くなると、個人的な悩みなどを相談されるという場合もあります。こうした精神的な援助にヘルパーがどこまで携わっていくことができるのか、ということは、介護保険制度における大きな課題といえるのではないのでしょうか。

〈ホームヘルパー 高橋真由美〉

ご相談者の心のうちを知るために

やすらぎ会では、今年度の職員内部研修の一つとして、「対人援助技術」を修得するための研修を実施しています。

福祉に携わる職員としてさまざまな場面でご相談をお受けする際、相談者が相談しやすい雰囲気をつくり、訴えようとしていることを自然に引き出せるような技術を身に付けることが、この研修のねらいです。

講師は岩手県立大学社会福祉学部経営福祉学科助教授の田中

尚先生。より効果的に技術を身に付けるために、受講者は各部署から計八名が選出され、一、二カ月に一回のペースで継続的に受講しています。

八月までに四回の講習を終えました。三回目までは主に講義形式で相談援助者としての基本的技能、姿勢等について学習し、四回目からは、受講者一人ひとりがこれまでの相談援助の中で悩んでいることなどをあげ、それについて全員で質問や意見を

痴呆症って 予防できる!?

第2回介護者教室開催



講師の成井和雄先生と
真剣な表情で話を聞く
参加者の皆さん

やすらぎ会では、今年度も沢内村より年四回の介護者教室開催の委託を受け、七月に一回目、八月に二回目を開催いたしました。八月二日にぶなの園地域交流の場で開催した介護者教室についてご報告します。

「痴呆症にならないためには」というテーマを掲げて開催した今年度二回目の介護者教室には、講師として北上市で内科、神経科の医院を開業されている成井和雄先生をお迎えしました。
先生のお話によると、痴呆の予防にはまず生活習慣病の予防が大切である、とのことでした。つまり、食生活などの生活習慣の中でちょっとした心がけて

正常な血圧を維持するよう努めることが、脳血管性痴呆症の予防につながるということです。

そしてもう一つ、普段から努めて頭を使うようにしてほしいということ。現代ではご飯を炊くにも洗濯をするにもボタン一つで機械が勝手にやってくれるので、頭を使うことが少なくなっている。便利なものに頼りきらずに、自らの頭を使うことが大切。また、趣味や生きがいを持つことも痴呆の予防につながるということでした。

悪天候にも関わらず、村内各地域から七六人の方が参加してくださいましたこと、また、先生のお話の後に質問が積極的に出



仕事を終えての学習にも
力が入ります

出し合い、どのような援助が望ましいかを考えていくという形式で学んでいます。

相談や訴えには、言語で表現されるものと、その裏にある非言語的なものがあり、双方が一致しないことも時々ある。表情などに現われる非言語の訴えこそそのメッセージが隠れていることが多いので、それを見落とさない眼を養うことが、援助者として必要との言葉は、現場に働く者として特に勉強になりました。逆に言えば、相談をお受けする我々も、言葉以上に自分の表情や態度に十分な配慮が必要であると感じました。

また、相談をお受けする場所など、ちょっとした配慮で相談しやすい環境をつくることもできるとのことです、実践できるも

されたことから、痴呆症に対する村民の関心の高さが伺われました。次にご紹介するのは、参加いただいた方々のご感想です。
『アルツハイマー型とボケとの違いがわかりよかった。先生のお話を聞いて、家の中でボーっとしていてはいけなと思った。まず、今年の冬は折り鶴を千羽折ろうと思う。』

（安ヶ沢 S・Mさん）

『アルツハイマー型には遺伝的な要因もあると聞いてびっくりした。でも、自分自身の健康管理をしっかりすれば、ある程度予防もできるということを知って安心した。食べ過ぎとか、体を動かすことを忘れず暮らしていきたい。』

（高下 Y・Sさん）

〈デイサービスぶなの園
チーフ 石川 進〉

のはおおいに実践し、今後の業務に活かしていきたいと思えます。

〈在宅介護支援センター
生活相談員 高橋 渉〉

真夏の夜空に 太鼓の音をとどろかせ

大盛況 第三回夏祭り

ぶなの園最大の行事として恒例となりました「夏祭り」も、今回で三回目を迎えました。七月二八日に開催された夏祭りには、沢内村議会議長をはじめ多数のご来賓の皆様、模擬店やステージ出演、盆踊りの太鼓や踊り手など、一〇〇名以上にものぼるボランティアの方々、そして村内外の地域から大勢の方がご来場ください、今年も大盛況の一夜となりました。

「子どもたちの踊りなどが見たい」との特養住民の皆さんの要望でステージ出演をお願いした湯田子ども太鼓、そして川舟田植え踊りの皆さんのすばらしい



特養住民に元気を与えてくださった太鼓の響き

のテレビは何と住民のSさんが獲得。ご家族も「北上から来た甲斐があった」と大変喜ばれておりました。

最後は住民代表の柏崎フミさんと上野米子施設長が終わりのことばを述べ、ご協力いただいたすべての方々に感謝の気持ちを込めて幕を閉じました。

夜がふけていくと同時に肌寒さを感じる季節外れの天候ではありましたが、心配された雨も降らず、「良い祭りだった」という声を多くの方からいただくことができました。これもさまざまなかたちでご協力いただいた多くの方のお力があってこそです。あらためて感謝申し上げます。

ご参加、ご協力いただいた方数名に、ご感想などをお伺いしましたので、ご紹介します。

川舟田植え踊り保存会 会長 高橋和夫さん

川舟田植え踊りの由来は、今から約一八〇年前、沢内から仙



元気に田植踊りを披露！川舟小学校の子どもたち

台地方に出稼ぎに行った方たちが、その地方の踊りを覚え、地元を持ち帰って広めたのが始まりと伝えられています。

ぶなの園で見ただいた三つの演目の一つめ、「鍛踊り」は田打ちを、二つめの「木立踊り」は田かきを表現しており、最後が田植え踊りという流れになっています。

思いきり踊るにはやや狭いステージではありましたが、子どもたちも適度な緊張感をもって一生懸命踊っていましたし、演目を終えた後の大きな拍手で、皆さんに喜んでいただいたという手応えを十分に感じることができ、我々も満足でした。

模擬店ボランティア

泉沢 高橋恵子さん

中学生、高校生のボランティアが大勢模擬店に協力してくれましたので、活気があって良かったです。若い人たちがこうして手伝いに来てくれるというのは、やはりうれしいものです。

サービス精神で容器に沢山詰めすぎたためか、おみやげに買った焼きそばの味が、去年よりもやや落ちたような気がして、ちよつと残念でした。

踊り手ボランティア

下の沢 高橋貞子さん

区長さんからの依頼で、盆踊りの踊り手として初めて参加しました。

盆踊りを見ているお年寄りの皆さんの表情がとてにこやかで、初めから終わりまで気持ち良く踊らせていただきました。

このように各行政区から人を頼むことで、お祭りに沢山人が集まって盛り上がるので、とて

も良いことだと思いました。子どもたちの太鼓や踊りもにぎやかで、とても楽しいお祭りでした。

沢内村保健婦長 高橋美紀子さん

職員はもとより地域住民、ボランティア、来賓の方々の気持ちに通じたのか、少し肌寒い感じでしたが、今年のぶなの園夏祭りも心地よい一夜を過ごすことができました。

ぶなの園住民の方々も、久しぶりに家族に囲まれほつとした顔で、子どもたちの太鼓や踊りを見ている。そばで見ているほほ笑ましく感じ、何かしら心が安まる思いでした。

家族がまだ来ていない一人の方に「五百円分の金券があるから、何か買ってきてあげようか？」と話したら、「オッチャンにあげたいので、隣の家の人が来てからやってけろ」と言われました。

子ども夫婦が祭りに参加されたもう一人の方は、お嫁さんの



特養住民の心からの笑顔があちこちで見られました

ことをいろいろお話してくれました。少しでも元気なところを家族に見せたい。そんな思いからか、やつと動く体で踊る盆踊りは心暖まる思いがしました。

この夏祭りを通して、私自身もいろいろな勉強をさせていただきました。各種行事を通じてながら地域住民と一緒に、ぶなの園の発展を願い、来年もまた、元気で夏祭りを迎えられるように……

特養住民の方々のご感想

『この歳になってこういう楽しい思いをさせてもらって感謝する。終わりのことばは思っていることをうまくしゃべれなかった。』

(柏崎フミさん)

『盆踊りの太鼓打ちに、歳をとった人も入って頑張っていた。太鼓の音がそろっていい良かった。』

(佐々木サキさん)

『初めて夏祭りを見たが、とてもおもしろかった。抽選では鏡が当たった。』

(菊地キワさん)

『盆踊りで三周踊ったらとても疲れた。いとこの孫に綿あめを買ってあげたらとても喜んでくれた。』

(児玉 幸さん)



終わりのことばを述べる
柏崎フミさんと上野施設長

ホーム喫茶のご案内

【閉店日】

10月21日(日)

11月18日(日)

12月16日(日)

【ご利用時間】

13:30～16:30

【場所】

ぶなの園

地域交流スペース

お待ちしております！

編集後記

最近、デイサービスの送迎バスの中ではこんな会話がよく聞かれるようになりました。

「まんつ、今朝だばさんびがつけなあ」

「よまかずなれば、かぜっこはっこぐなってくるおんなあ」

「これが、だんだんにさんびぐなって、そんま白いのちらちら降ってくるんだ…」

ご利用者の方々は、季節を肌で感じられる方が多いようです。他にも、食べ物や行事、景色などさまざまなものから季節を感じとることができると思います。あなたは何で季節を感じますか？

〈やすらぎ会広報委員〉

高橋 渉 近藤富子 上中屋敷陽子

佐々木菜穂子 高橋宏明 高橋直美

感謝申し上げます

平成13年6月～平成13年8月

【ご寄付】

- ・蛭坂泰宏様
- ・高橋信一様

【ご寄贈】

- ・大石テツ子様
- ・木村義房様
- ・吉田信子様
- ・南川幸一様
- ・高橋 敏様
- ・高橋幸一様
- ・佐々木淑子様
- ・沢内村婦人連絡協議会様
- ・三浦武一郎様
- ・光寿苑様
- ・戸巻トシ子様
- ・吉田隆市様
- ・石川弘子様

【ボランティア等】

- ・沢内村民生委員の皆様(住民介助等)
- ・沢内村高齢者趣味の会の皆様()
- ・平沢安保様()
- ・高橋ミツ子様()
- ・長瀬野婦人会の皆様()
- ・泉沢婦人会の皆様(ホーム喫茶)
- ・太田婦人会の皆様()
- ・上新町婦人会の皆様()
- ・結いっこの会の皆様()
- ・佐々木ツユ様()
- ・沢内村理容組合の皆様(住民理髪)
- ・岩谷堂農林高校の皆様(鹿子踊り披露)

在宅での介護のお悩みは

在宅介護支援センター にご相談ください

《電話番号》

85-2319 (支援センター直通)

85-2322 (土・日・祝日、夜間対応)

お気軽にどうぞ!